



図 41-15 大脳基底核は初期条件の突然の変化に対する姿勢反応の順序に重要である (Horak, Nutt, and Nashner 1992 より)

A 健常被験者は、直立位から座位へと姿勢を変えるときに、支持台の後方への動きに対する反応を速やかに修正することができる。座位での後方への動きに対する姿勢反応は、下肢筋である腓腹筋 (GAS) やハムストリング (HAM) を動員せず、起立時よりも短い潜伏で傍脊柱筋

(PSP) を活動させる。ABD、腹筋；QUAD、大腿四頭筋；TIB、前脛骨筋。

B パーキンソン病患者では、姿勢が立位から座位へと変わったときの最初の試行において、下肢筋の反応は抑制されない。この被験者の座位での姿勢反応は、立位での反応とよく似ており、拮抗筋 (紫色) は主動筋 (ピンク色) とともに活動する。